

安全データシート

作成日:2021年8月18日

改訂日: 年 月 日

1. 製品及び会社情報

製品名 ZEKURA PAO-4
主用途 潤滑油原料
整理番号 2021081801
会社名 株式会社潤研
住所 〒244-0803 神奈川県横浜市戸塚区平戸町 385-2
担当部署 本社
電話番号 045-443-5530
FAX 番号 045-443-5531
緊急連絡先
電話番号 090-7260-1488
FAX 番号
受付時間 午前9時から午後5時まで(土日祭日除く)

2. 危険有害性の要約

物質または混合物の分類

JIS Z7252-2014 及び JIS Z7253-2012 に 従った GHS 分類及びラベル表示(GHS 2011)

分類: 誤えん有害性, 区分 1

GHS ラベル要素:

シンボル :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報:H304: 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き:

応急処置:

P301 + P310: 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。

P331: 無理に吐かせないこと。

保管:P405: 施錠して保管すること。

廃棄:P501: 内容物/容器を承認された処理施設に廃棄すること。

3. 組成, 成分情報

単一製品・混合物の区別:	単一物質
化学品又は一般名:	PAO-4
成分及び含有量:	ポリアルファオレフィン 100 mass%
化学特性(化学式又は構造式):	PAO4-1-Decene, homopolymer, hydrogenated
官報公示整理番号(化審法、安衛法):	9-2375 (6)-1109 9-3416
CAS No.:	68037-01-4

株式会社潤研 ZEKURA PAO-4

4. 応急措置

一般的なアドバイス:	危険域から避難させる。この安全データシートを担当医に見せる。
吸入した場合:	本物質を飲み込んだり吐いたりした場合、生命にかかわる可能性のある深刻な肺炎を引き起こすことがある。 新鮮な空気のある場所に移す。 身体を毛布などで覆い、保温して安静に保ち、必要なら医師の手当てを受ける。
眼に入った場合:	予防措置として、水で眼を洗浄する。コンタクトレンズをはずす。 損傷していない眼を保護する。洗浄中は眼を大きく開ける。眼刺激が治まらない場合は、専門医に相談する。
飲み込んだ場合:	気道を確保する。意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。症状が持続する場合は、医師に連絡する。直ちに被災者を病院に連れて行く。
主要な兆候及び症状に関する情報:	飲むと下痢、嘔吐する可能性がある。 目に入ると炎症を起こす可能性がある。 皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。 ミストを吸入すると気分が悪くなる可能性がある。

5. 火災時の措置

消火剤:	霧状の強化液、泡、粉末又は炭酸ガスが有効である。 初期の火災には、粉末、炭酸ガスを用いる。 大規模火災の際には泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。
使ってはならない消火剤: 特定の消火法:	棒状の水を用いてはならない。 火災発生場所の周辺には関係者以外の立ち入りを禁止する。 火元への燃焼源を断つ。 周囲の設備などに散水して冷却する。
消火を行う者の保護:	消火作業の際には、風上から行い必ず保護具を着用する。 燃焼又は高温により有毒なガス(一酸化炭素等)が発生する可能性があるため、呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項:	作業の際には必ず保護具を着用する。十分な換気を確保する。
環境に対する注意事項:	河川、下水道等に排出されないように注意する。 海上の場合、薬剤を用いる場合には国土交通省で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。
回収・中和ならびに封じ込め 及び浄化の方法・機材:	周囲の着火源を速やかに取り除く。 少量の場合は、ウエス、乾燥砂などに吸収させて空容器に回収し、その後を完全にウエス等で拭き取る。 大量の場合は、漏洩した場所の周辺にロープを張るなどして人の立ち入りを禁止する。漏洩した液は土砂などでその流れを止め、安全な場所に導いた後、出来るだけ空容器に回収する。 海上の場合は、オイルフェンスを展開して拡散を防止し、吸着マット等で吸い取る。 薬剤を用いる場合には国土交通省で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。

二次災害の防止方法： 漏洩時は事故の未然及び拡大防止を図る目的で、速やかに関連機関に通報する。
 周囲の着火源となるものを速やかに取り除き、着火した場合に備えて、消火機材を準備する。
 こぼれた場所は滑りやすい為に注意する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策： 指定数量以上の量を取り扱う場合には、消防法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。
 炎、火花または高温体との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。
 静電気対策を行う。作業衣、靴等も導電性の物を使用する。
 危険物が残存している機械設備などを修理または加工する場合は、安全な場所において危険物を完全に除去してから行う。
 容器から取り出す時は、ポンプ等を使用すること。細管を用いて口で吸い上げて(サイホンして)はならない。飲まない。
 皮膚に触れたり、目に入る可能性のある場合には保護具を着用する。
 ミストが発生する場合、呼吸器具等を使用してミストを吸入しない。
 容器は、必ず密閉すること。

注意事項： 石油製品から発生した蒸気は空気より重いので滞留しやすい。
 そのため換気及び火気などへの注意が必要である。

安全取扱い注意事項： 常温で取扱うものとし、その際、水分きょう雑物の混入に注意すること。
 ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。

保管

適切な保管条件： 直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。
 ゴミ、水分などの混入防止のため使用後は密栓して保管する。
 危険物の表示をして保管する。
 熱、スパーク、火炎並びに静電気蓄積を避ける。

適切な技術的対策： 保管場所で使用する電気器具は、防爆構造とし、器具類は接地する。
 ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。

安全な容器包装材料： 空容器に圧力をかけない、圧力をかけると破裂することがある。
 容器は溶接、加熱、穴あけまたは切断しない、爆発を伴って残留物が発火することがある。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策： 大気中濃度を曝露ガイドライン/制限未満に制御するよう適切な換気を行うこと。
 工学的制御の設計や個人用保護具の選択の際には、本物質の潜在的危険性(第2節参照)、適用される曝露限度、作業活動、および作業場にあるその他の物質を考慮すること。工学的制御または作業方法が、本物質の有害レベルにおける曝露の予防に十分でない場合には、以下の個人用保護具を使用することが推奨される。保護は

株式会社潤研 ZEKURA PAO-4

通常、限定的な時間または一定の状況下に対して提供されるものであるため、ユーザは装置に付属するすべての指示事項および制限事項を読んで理解しておくこと。

保護具

呼吸器の保護具:	通常の大気圧下において最小酸素容量の 19.5 容量%を維持するために、通気または工学的制御が適切でない限り、NIOSH 認定送気呼吸器を着用すること。 空中への散布レベルが有害となるような作業を行う場合は、有機蒸気用の濾過式呼吸用保護具など、NIOSH 認定の呼吸用保護具を着用すること。 粉塵・蒸気用濾過式呼吸用保護具 / P100。 制御できない放出の可能性がある、曝露レベルがわからない場合、または濾過式呼吸器では十分な保護が行えない場合には、陽圧の給気式呼吸器を使用すること。
手の保護具:	製造メーカーと相談の上、作業場所に相応しい防護手袋を着用すること。手袋の供給業者が提供する透過性および破過時間に関する指示に従う。また、切り傷、擦り傷、接触時間など、製品が使われる特定の環境条件も考慮する。 手袋に劣化または薬品の浸透を示す兆候がわずかにある場合でも、手袋を破棄し取り替えなければならない。
眼の保護具:	純水入りの眼洗浄ボトル。 密着性の高い安全ゴーグル
皮膚及び身体の保護具:	長時間にわたり取り扱う場合または濡れる場合には、耐油性の長袖作業服等を着用する。
適切な衛生対策:	使用中は飲食しないこと。 使用中は禁煙。 休憩前や終業時には手を洗う。 濡れた衣服は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	
形状:	液体
色(外観):	無色透明
色 ASTM	L 0.5
臭い:	無臭
pH及びその濃度:	—
物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲	
沸点:414	初留点:
融点:	流動点:
引火点 COC	219°C
自然発火温度	343°C
爆発特性	
爆発限界(上限):	—
爆発限界(下限):	—
密度 @15°C g/cm ³ :	0.82
溶媒に対する溶解性:	

10. 安定性及び反応性

安定性:	通常の条件では安定。
反応性:	通常の周囲室温および圧力では安定。

株式会社潤研 ZEKURA PAO-4

避けるべき条件: データなし。
避けるべき材料: データなし。

11. 有害性情報

急性毒性(経口): $LD_{50} = 5000$ mg/kg 以上 (ATEmix)
急性毒性(経皮): $LD_{50} = 2000$ mg/kg 以上 (ATEmix)
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト): $LC_{50} = 5.2$ mg/L 以上 (ATEmix)

皮膚腐食性/刺激性: 皮膚刺激なし。
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性刺激: 眼への刺激なし。
皮膚感作性: 動物実験では感作成なし。
誤えん有害性: 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。
ヒトに対する吸入毒性危険有害性が既知であるか、この危険有害性を引き起こすかのようにみなされている物質。
CMR 影響: 発がん性: ヒト発がん性としては格づけできない。
変異原性: 動物実験では遺伝子の突然変異への影響は無かった。
催奇形性: 動物実験で催奇形性は示さなかった。
生殖毒性: 生殖に対する毒性は無い

12. 環境影響情報

生態毒性
魚毒性: $LC_{50}: > 1,000$ mg/l
曝露時間: 96 HR
種: *Salmo gairdneri* (ニジマス)
 $LC_{50}: > 750$ mg/l
曝露時間: 96 HR
種: *Pimephales promelas* (ファットヘッドミノウ)

ミジンコ等の水生無脊椎動物に
対する毒性: $EC_{50}: 190$ mg/l
曝露時間: 48 HR
種: *Daphnia magna* (オオミジンコ)

藻類に対する毒性: $NOELR: 1,000$ mg/l
曝露時間: 72 HR
種: *Scenedesmus capricornutum* (淡水産藻)
止水式試験 方法: OECD 試験ガイドライン 201

生分解性: 本質的に生分解性を有すると考えられる。

生体蓄積性: この材料は生物濃縮には見込まれない。

移動性: データなし

PBT アセスメントの結果: 分類されていない PBT (難分解性で生物蓄積性の有毒)物質, 分類されていない vPvB (極めて難分解性で高い生物蓄積性)物質

生態系に関する追加情報: データなし

株式会社潤研 ZEKURA PAO-4

環境毒性アセスメント

水生環境有害性 短期(急性):本物質は水生生物に有害であると考えられません。

水生環境有害性 長期(慢性):本物質は水生生物に有害であると考えられません。

13. 廃棄上の注意

この SDS の情報は、出荷される製品のみに関連する。

本物質は意図された目的に使用し、可能であれば再生利用すること。廃棄する必要がある場合、本物質は、RCRA(40 CFR 261)に基づき米国 EPA に定義された、またはその他の州や地方自治体により定義された、有害廃棄物の基準が適用されることがある。適切な判断を下すために、所定の物理的性質の測定および規制対象物質の分析が必要な場合がある。本物質が有害廃棄物として分類されている場合には、連邦法により認可済みの危険廃棄物処理施設にて廃棄することが義務付けられている。

製品: 廃棄物を下水へ排出してはならない。薬剤または使用済み容器で池、水路、溝を汚染しないこと。認可された廃棄物処理業者へ委託する。

汚染容器及び包装: 残りの容器を空にする 製品入り容器と同様に処分する。空の容器を再使用しない。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連分類: 国連の分類基準に該当しない

国連番号: 該当番号なし

国内規制 下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に

従った容器、積載方法により輸送する。

陸上輸送 消防法: 危険物第4類第4石油類危険等級Ⅲ(非水溶性)

容器: 危険物の規制に関する規則別表第3の2項に定めたものを使用すること。(注)容器は危険物の規制に関する技術上の基準の細目を定める告示第68条の5に定める容器試験基準に適合していることを確認すること。

海上輸送 船舶安全法: 非危険物(個別運送及びバラ積み運送に於いて)

航空輸送 航空法: 非危険物

輸送の特定の安全対策及び条件: 火気厳禁

容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。

指定数量以上の危険物を車両で運搬する場合は、総務省で定めるところにより、当該車両に標識を掲げる。また、この場合、当該危険物に該当する消火設備を備える。

運搬時の積み重ね高さは3m以下とする。

第1類及び第6類の危険物及び高圧ガスを混載しない。

15. 適用法令

消防法: 引火性液体第4石油類危険等級Ⅲ(非水溶性)

労働安全衛生法

危険物: 該当しない

有機溶剤中毒予防規則: 該当しない

特定化学物質等予防規則: 該当しない

毒劇物取締法: 該当しない

株式会社潤研 ZEKURA PAO-4

化学物質管理促進法 (PRTR法) :	指定化学物質を含有しない
水質汚濁防止法:	油分排出規制 (許容濃度 5mg/L)
下水道法:	鉱油類排出規制 (5mg/L)
海洋汚染防止法:	油分排出規制 (原則禁止)
廃棄物の処理及び清掃に関する法律:	産業廃棄物規制 (拡散、流出の禁止)
船舶安全法:	非危険物 (個別運送及びバラ積み運送に於いて)
航空法:	非危険物

16. その他の情報

引用文献

1. ANSI Z 129.1-1994 American National Standards Institute. (米国規格協会)
2. 新・絵で見る中毒110番 (保険同人社)
3. 許容濃度の勧告 (2010) 日本産業衛生学会 産業衛生学会誌
4. 化審法 既存化学物質 ハンドブック第4版 化学工業日報社
5. Thresholds limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices, ACGIH (2010)
6. IARC monographs on the evaluation of the carcinogenic risk of chemicals to humans vol 33.
7. EU 理事会指令「67/548/EEC」の付属書1「危険物リスト」
8. 新版 危険・有害物便覧、page 528,690
9. 製品安全データシートの作成指針 (日本化学工業協会)
10. IARC monographs on the evaluation of the carcinogenic risk of chemicals to humans vol 45.
11. JIS Z 7253:2012
12. 化学品の分類および表示に関する世界調和システム (GHS) 改訂 4 版 (国際連合, 2011)
13. 危険物輸送に関する勧告 第 I 巻 第 15 改訂版 (国際連合, 2007)
14. 使用原料の製品安全データシート

記載内容の取扱い

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取り扱いを確保する為の参考情報として、取り扱う事業者に提供されるものです。

記載内容は、現時点で入手出来る資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、

安全を保証するものではありません。

また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであり、特別な取り扱いをする場合には、新たに

用途、用法に適した安全対策を講じた上での取り扱いが必要です。

全ての化学品については、未知の有害性があり得ます。取り扱いには細心の注意が必要です。本品の適正なる使用については、使用者各位の責任に於いて行って下さい。